

# 滿洲地方に於ける

## 土木事業と都市計畫施設 (五)

### 三 浦 磐 雄

#### 長春と諸施設

長春は大連を距ること四百三十五哩八、奉天へ百八十九哩四に在りて、南滿、吉長及東支の三鐵道の集合地なり。既往は軍事、政治、經濟の上に於て日・支・露の交渉地に當り、我が國最北端の前線たり。

又此の地は、中部滿洲の最大農産市場として、物資の集散及中繼盛なるが故に、商業、金融の地方的中心地たりしが、今日新滿洲國此所を主都と定め「新京」と改めて政治の中心都市となす。従つて將來は此の主都に伴ふ設備の完璧を期するもの多かるべきは當然の事に屬す。

露治時代は今の附屬地は、荒野原なりしが、滿鐵會社に依りて買收せられ、全く邦人の手に據りて設計計畫せられたる市街なり。長春も鐵道附屬地、商埠地及城内の三部に分たる。

附屬地 長春驛前の廣場より中央通、日本橋通、敷島通の十  
五間乃至二十間の幅員を有する三大街路を放射し、東廣場及南廣場を置きて街衢整然たり。町名も縦通を東西の一、二、三條通以下、横道をイロハ順の和泉町、露月町以下、ヒフミ順の日出町、富士町以下、アイウエオ順の曙町、入船町以下の如く名付く。而して街路樹としては、主にテリハ

ドロの木と稱するが大きく繁茂し、高きより瞰れば町は之

等の樹々によつて美しく埋り居るの感あり。吉野町、日本

橋通方面が商業區

として賑盛なり。

街の南部及中央通

以西は學校、官公

街、社宅町を成し、

東部及鐵道北には

支那町、糧棧、工

場等集る。

商埠地 附屬と城

内との中間に位し

附屬地の日本橋を

渡れば直ちに此所

に至る。商勢頗る活氣を帯ぶ。大なる市場一箇所設けらる。

因に此の商埠地は、新滿洲國の執政に因縁淺からず、清代

の宣統元年に設置せられ次第に殷盛となりたるものなり。

我が領事館を置く。

城 内 同治四年に匪賊防備の爲、市民が醵金して周圍十

支里に不規則なる

長方形の城廓を築

き東・西・南・北・東

南・西南・東北・西

北・馬號の九門を

開きしが、其の大

部分は破壊し、城

としての區劃不分

明となりたり。

主道は北大街及南

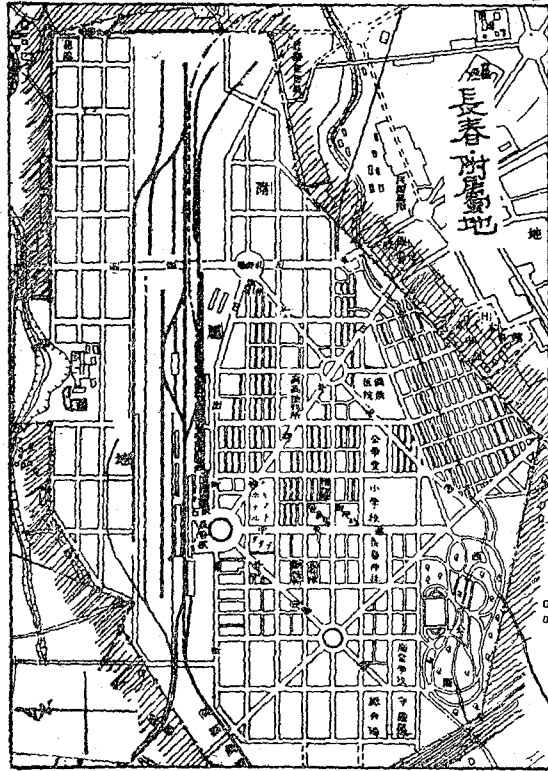
大街にして大商店

並び各種の招牌垂

れ、人馬の往來繁し。古りし南門（全安門）を出づれば伊

通河に架せられたる素朴なる木橋を渡る。其の袂には關帝

廟の堂塔が群れ聳え、又下流には魁星樓の遺物を見る。



長 春 附 屬 地 圖

長春に於ける都市計畫上の施設とも見るべきは次の如し  
公園及遊歩地 公園四ヶ所、遊歩地一箇所を有し、其の面積

合計三十五萬五千五百五十八坪に  
及び、特に附屬地内西公園の如きは十萬坪餘にして、此の廣大なる  
領域には樹林茂り、大なる池水を湛え、花壇、温室、噴水、小亭、動物、禽類の檻を配し、設備に於て理想的のもつと云ひても差閔なかるべく、池には夏季ボートを浮べ、冬季スケートが盛に行はる。日支露三國人が和樂逍遙し、國際的公園としての特色を持つ。正門に近く等身の女神像が平和を象徴して立ち其の他記念の塔など、美はしく按配せらる。

出したり。約七千戸（人口四萬五千）に對し給水し、一年の消費水量は約八十五萬立方米を算す。



長春西公園の冬

上水道 現在二箇所施設し、其の事業費百十萬餘圓を支

付面積は一千百坪位なり。

消防施設 消防隊一、消防組一にして、ポンプ自動車一、手押ポンプ

二臺を備へ、五萬三千餘圓を支出したり。一方去る昭和四年には火

災五十五件の多きものありしが、損害高は四萬餘圓に止むるを得たりと云ふ。

屠場 屠場一箇所一ヶ年約二萬頭に近き屠殺をなす。

火葬場 普通火葬場一箇所、簡易火葬場一箇所在りて、一ヶ年約百五十件あり。

墓地 墓地二箇所其の面積五千五百十坪を有し、現在迄の貸

汚物掃除作業 塵芥運搬は戸數約六千戸に對して、搬出量一

千三百六十八萬餘疋に及ぶ。

尿尿處分は戸數五千三百に對し、搬出量八百七十三萬餘立を算す。

兩者共人夫及馬車又は自動車を用ふ。

運動施設 演武場、野球場、陸上競技

場、弓道場、水泳プール及スケー

ト場等各々一箇所宛、庭球コート

五箇所、體育ボールコート二箇所

を設備す。尙長春管内には范家屯

大屯、孟家屯に庭球コートを、又

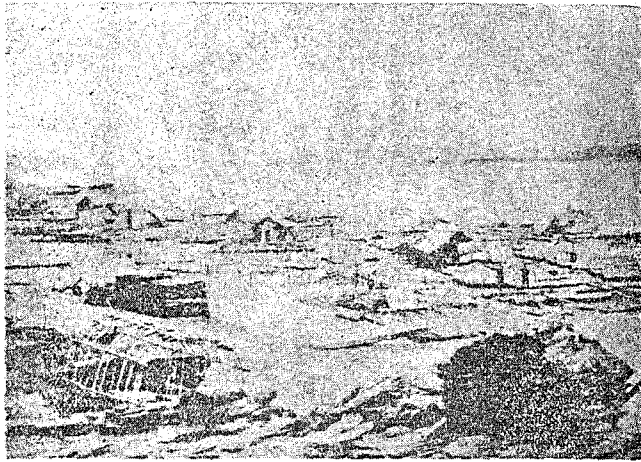
范家屯には弓道場を設く。

### 吉林

吉林は正しく水の都會なり。水に

育まれ水に動き、又水に生き來りたるなり。先づ其の名も

滿洲語より出でたと稱せられ、古く吉臨烏喇と言ひ、吉



臨は「沿ふ」烏喇は「大江」の意にして、即ち「大江のほとりなる都」の心を表はす。山又

山を縫ひて廻り來る松花江の流は

此處に緩くは字を型り、慈しむが

如き九峰の懷に抱かれて、既に舊

く都せられ、其の山河襟帶の風光

は此の地に聚落する人の心を和げ

典雅に導き、優美に誘ひ、彼の吉林

美人の名も謳歌せらるゝに至る。

### 吉林松花江の後

吉林の總ては松花江の舟楫に倚

りて今日あるを想はしむるは、河

川交通の因める事業、日常生活又

は心的現象が多分に、此の都市の

色彩を爲すに見れば、「船廠」なる

吉林の別名が一般支那人間に呼ば

るゝも、史上に表はれたる造船、造船廠、水師營、海軍根

據地の文字にて知るを得。

可航の季節には舟筏に依り、河上凍結の冬は馬車に櫓に物資の集散行はれ、特に吉林奥深く木の國の木材は編筏が廣き江面を蓋ふに至り、冬は馬車宿（水院子と云ふ）に河汀を埋むるに至るに見ても、其の熾なるが窺はる。

向江胡同、松江胡同、臨江街等の大江に因る街の名も床し。城内を横に縫ふ道路の多くは平行して、江に出づるに都合よく配せらる。河を利用して營まる、職業は多く河端に發達す。又市民が飲料水を江水又は江水より得て水賣車の街を行くも珍らしき情景の一なり。

古來河に依據して生活し來りし爲か河に因る傳説も多き中に、松花江は毎年の開江の際、文開（氷が水底に沈む）、武開（氷が山堆の如く浮む）との別あり。之れ皆江中に棲める獨角の牛の致す所なりとす。又今は朽つるに任せあれども東萊門外の松花江神の廟の如き心的の珍象なり。

今日吉林市街を成す土地は、曾ては河床なりし事は種々の事實より推想せらる。北山山麓の地面は特に低く、池沼水溜の所々に遺し居るは河跡湖の一種と見做し得べく、河

床の移動を物語るものなり。街名に残る河南街の如きも、現在は松花江道より遠く後退す。河岸と砂が次第に高くなる傾向は市の東端東太沙灘に見らる。其の他種々の移動を表はすものあり。

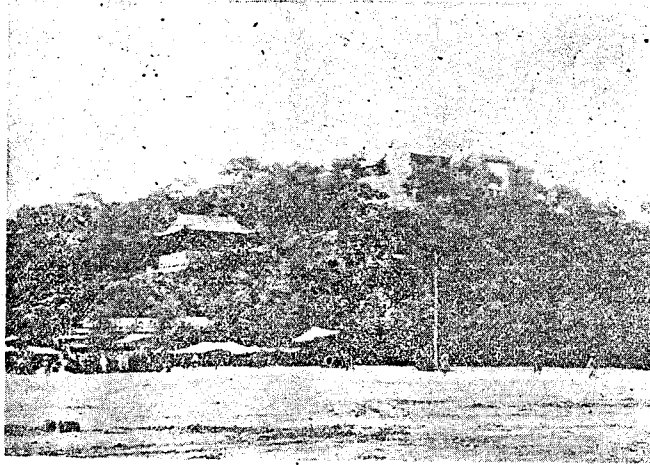
如上吉林は水系による交通路に依據して特相を帯ぶるが此の地は將來四方に放射する鐵道によりても、經濟的活動に更に變轉を來さんとす。即ち既成の吉張線、吉敦線及豫定の吉海線之なり。吉敦鐵道は吉會鐵道（吉林、朝鮮會寧間）豫定線の西半部に於て、其の間には斧鉞も入らぬ原始林の二十哩に亙る地帯ありて、潛藏の富源を開拓する使命を負ふ。吉海鐵道は奉海鐵道に刺戟せられて計畫せられたるものなり。

城内十支里に亙り不規則なる城壁を繞らす。其の形より琵琶城の名あり。城壁は高さ丈餘、幅二尺許にして九門を開く。商業區としては河南街、北大街、西大街及牛馬行街等殷盛を極む。然れども吉林は名に負ふ滿洲の舊都にして、清朝發祥の傳説に絡る故地なるが故か、省城全體が何

處ともなく所謂「おつとり」としたる氣分に包まる。木材 數多く、城の北二里に龍潭山、江を隔て、江南公園、西南に惠まる、所より建築に對しても豊富に材木を用ふ。又木材は道路工事にも用ひられ、特に道の兩側に高く溝蓋を造る等目を引くものあり。又江水面より、二十尺の高さを成す傾斜面には斜道を所々に設け物資の運搬に便す。又此所には吉林省の政治軍事、經濟の中心地としての施設機關も集り居るなり。

商埠地 吉林車站を出で新關門迄の東大馬路、中大馬路の大道の左右に擴る商埠地は、近年急速に發展し來りたり。内地人(約一千)も多くは此所に居住す。日本領事館、滿鐵の公所及東洋醫院等も此の域にあり。

都市計畫上の施設としては見るべきもなきも、名所舊蹟



吉林北山

一里に小白山、東二里に阿什哈達摩崖の碑等あり。就中城に近く北山は其の名高く此所に建てられたる諸廟(關帝廟、藥王廟、坎離宮、玉皇閣等)は壯麗其の物なり。北山は普通吉林の展望地とせられ居るものにして、玉皇閣門上の扁額には「天下第一江山」とあるも宜なり。

山 哈爾濱

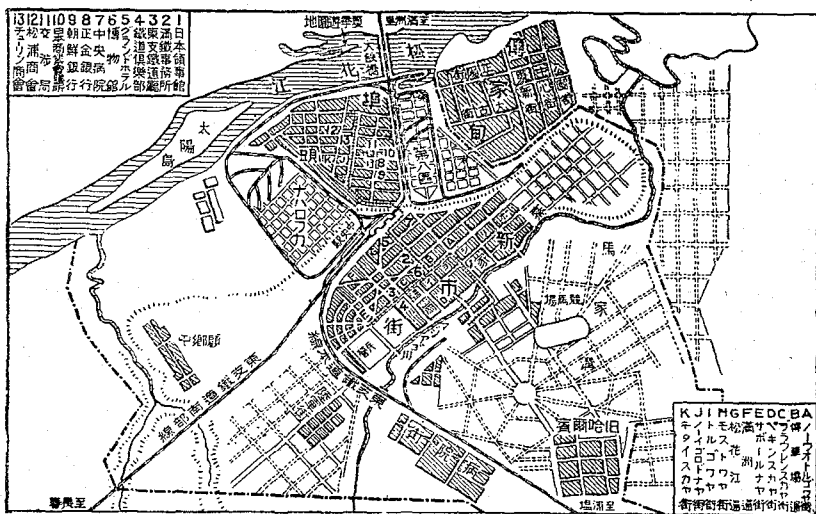
哈爾濱はハルピンと呼び、近時哈爾濱と書し、又支那側にては濱江と云ふ。北緯四十四度五十分位置す。今より三十五年以前迄は

貧弱なる一寒村に過ぎざりしを、東支鐵道の布設完成以後に於て、異狀なる發展を見たるものなり。今日「滿洲の心

「臟なり」或は「北滿洲の重心なり」など稱せらるゝに至り、産業經濟の上よりも、典型的國際都市としての政治外交上に反映を來す上よりも、眞に全滿洲の樞要都市たるなり。

「滿洲の穀倉」と謂はるゝ松花江盆地の濕地平野の農産物の集散市場となり、北滿洲輸入貿易の中心地として商業金融に重きをなし、又日、支（滿）及露其他各國の角逐舞臺として、就中露、支（滿）間の勢力消長を如實に現す所に、此の都市存在し、其の特色を保有す。

以上の現象は、其の原因が一到交通に胚胎したる事是否認し



哈爾濱市街圖

難く、鐵道は此の地より東へ浦鹽斯德に、西へ莫斯科を経て西歐諸國に、南へ奉天を過ぎて東洋諸國に通じ、水路は松花江を溯つて吉林地方へ、下れば黑龍江に合して沿海州方面の諸市に至る。寔に四通八達、北東亞細亞の物資輸送、旅客の往來に結節點をなすものなり。

哈爾濱市街は、臺地の上に發達したる新市街、之に續きて馬家溝、又長き街道にて結ばれたる舊哈爾濱方面と、松花江の河邊の低地に發達したる傳家甸、第八區、埠頭區、ナハロフカ方面とに地形上區別せらる。加ふるに此の都市は所謂「街星市街」

を型り、新家溝、アレクセーフスキー村、病院街、インテ  
ングントスキー待避驛など散布し、  
大哈爾濱としての立場より本市を見  
れば、其の雄大實に滿洲諸都市中の  
白眉と云ふを得べし。

舊哈爾濱は露西亞が最初に市街を  
建設したる所にして、今は工場街と  
して新市街より約十町長き街の一端  
に残存し、其の西方遙かに離れて病  
院街あり。

新市街は哈爾濱驛のある所にして  
落着のある整然たる街を成し、獨殊  
の丸石鋪裝、廣告塔、建築等總て露  
西亞氣分溢る。概して此の區域には  
樹木多く、街の或る部分は細長き林  
を以て圍繞せらるゝ所も見受らる。南部方面は東支鐵道從  
業員の寄宿するもの多く、北部方面は商勢盛にして特にノ

ーウオ・トルゴワヤ街は大商店多く殷盛を極む。此の街に

キ タ イ ス カ ヤ 街

チユーリン商會あり。廣場には露  
西亞の表象たる中央寺院あり。大  
體に於て、此の新市街には、官衙、  
住宅多く、滿鐵事務所、東支鐵道  
廳、東支俱樂部等あり。又北部に  
大なる墓地あり。街は秦家崗と呼  
ばるゝ高臺に位し、馬家溝河を隔  
てて馬家溝街あり。白系露人の避  
難民多く居住す。又日露協會學校  
競馬場等あり。

埠頭區は前記新市街を「山の手」  
と云へば「下町」に當る所にして、  
全くの商業區なり。中にもキタイ  
スカヤ街は目抜き通にして、大  
商會軒を並べ日本の諸銀行會社の支店も此所に集る。公園  
も非常に設備良く賑ふと云ふ。食料品、家具、古物の廣大



なる市場もあり。松花江に架したる三千二百呎の鐵橋は威風四邊を壓す。此の區の南端にナハロフカリ稱する白系露人の貧民窟あり。

博家甸は支那人の建設したるものにして、主道たる正陽街は人馬車の輻輳驚く許りなり。第八區と稱するは此の區と埠頭區との中間に介在する工場、倉庫區とも云ふべき所にし、特に油房多し。

中央大路には南社橋比し、各國人の競争市場の觀を呈する狀況を見はし、松花江岸に出づれば流石は北滿第一の大河にして、江口は露領沿海縣尼港に注ぎ、其の距離約四百邦里、其の間江水多き時は一千噸級の河船自由に航行し得て、水深は哈爾濱附近に於て平時河水の時に約三十尺あり、其の幅五百餘間な



結氷せらる松花江上乗合櫓

りと云ふ。冬季は此所を中心に交通も氷上に開かれ、偉觀を呈す。

哈爾濱には在哈邦人有志にて伊藤博文公記念堂を建て、同公の胸像を安置して其の偉業を偲ばしむ。近郊に沖、横川兩氏等六烈士の碑あり。銃殺せられたる地を下し劃して櫻樹も植ゑられて碑は兀立す。亦一掬の涙を催す。

次に施設機關の主なるものを擧ぐれば、日本側のものとしては總領館、領事館、警察署、滿鐵哈爾濱事務所、日露協會學校、日本小學校、本願寺幼稚園、圖書館、商工會議所、商品陳列館、諸銀行本支店、諸會社本支店、各派寺院、教會等あり。支那側にては東省特別區行政長官公署、濱江道尹公署、

濱江縣公署、東省特別區市政管理局、法政大學、工科大学、醫學專門學校、東省鐵道公司等あり。又外國のものは、ソヴエート聯邦總領事館始め英・米・佛・獨・伊・白・葡・瑞・丁・ラトビヤ及チエツコスロヴァキヤの各國領事館並にエストニヤ及リトワニヤ國の各代表公館、哈爾濱商業會議所、極東銀行始め各銀行本支店、中央寺院等の寺院及教會等あり。尙右の外、軍事機關、公園（四箇所）及遊園地、植物園等の設備あり。新聞も數種發行せらる。又市内の交通機關は、電車、馬車、自動車、人力車等ありて、冬季には極も重要なるものなり。

「夜の哈爾濱」なる言葉あり。宜なり、倶楽部の名に於ける亨樂場三、劇場四、映畫館十一、ダンスホール六の數字に見ても其の情況は推察せらるべし。又茲に珍らしき習慣は、此の地の商取引にして、平日も銀行商店共に其の取引賣買（小賣迄も）は、午前に於て十時より正午迄とし、午後は正午より三時迄は食事時間として其の門扉を閉し、午後三時より季節によりて六時乃至七時迄商取引をなすも

のと確守せられ、一日中五時間（六時間）以外は休業の狀態なり。日曜日及祭日は全く休業す。然れども其の時間中は全力を擧げて目の色も替へて取引に熱中するものにして所謂「よく働き、よく遊ぶ」と云ふが適するならんか。

最後に特筆すべきは、産業方面に大に其の力を致す哈爾濱商品陳列館にして、大正七年當時の農商務大臣が日露協會に依頼して設立したるものなり。我が國對露・滿蒙貿易の發達を助長する指揮機關として、幾多の顯著なる成績を收め來れり。本館は我國内地の供給者を露滿蒙市場に於ける需要者との間に立ち、相互の經濟關係、取引事情其他一般經濟現象を理解せしめ、我が國對外貿易の助成と圓滑にして將來ある取引の斡旋に努め居ると云ふ。（未完）